

柳井医療センター だより

令和3年 4月

〈発行所〉
国立病院機構
柳井医療センター
〈発行責任者〉
住元 了



院長 住元 了

平素より柳井医療センターの病院運営にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。令和3年度を迎え一言ご挨拶を申し上げます。東京近郊の1都3県の緊急事態宣言が、結局3月21日まで2週間延期となりました。1都3県は医療の逼迫状況が改善されず、また、新規感染者数が下げ止まりで、宣言を解除すればリバウンド必発との判断から延長する方針となったようです。また、現時点（3月8日）ではオリンピック、パラリンピックには外国からの一般の観客は受け入れない方針は決定しましたが、入場者数をどうするかは、いまだ未定です。一方、ワクチン接種ですが、先行接種の4万人は2～3月に接種が順調に行われますが、3月中に終了するとされていた優先接種である470万人分（医療従事者）のワクチンは、予定の6分の1程度しか輸入されず、計画の変更を余儀なくされました。当院は連携型接種施設として地域の住民の皆様方に集団接種を予定しています。もう暫くお待ちください。

考えてみれば、令和2年度はCOVID19の蔓延により、出張が全くと言っていいほどありませんでした。我々NHO病院は全国病院長会議が毎年4回程度東京で、中四国病院長会議が毎年5～6回岡山、丸亀でありましたが、この1年間1回を除いてすべてWeb会議でした。また、学会出張も例年最低5回はありましたが、これも実質的に全てWeb形式となりました。今後もこれがニューノーマルになるとすれば何とも味気ない勤務医生活となりそうです。確かに病院としては出張費が大幅削減されるので経営的にはいいのですが、たまには気晴らしを兼ねて、病院から離れてゆっくりするのも、いいものでした。早く学会、出張くらいはBefore コロナに戻ってほしいものです。

また、病院経営ですが、全国約8000ある病院の8割が、外来、入院患者数の減少で医業収支がマイナスに転じています。今後ワクチン接種が進み、新規患者数の減少、死亡患者数の減少が得られれば、患者数も戻り、beforeコロナに近づくことが予想されますが、世界では、ワクチン接種が進む中、それをあざ笑うかのように新規患者数が増えています。その原因は、英国に端を発した変異株の台頭です。変異株は、従前のウイルスの170%の感染力を有するそうです。驚くことに、世界のCOVID19の60%が、既に変異株に置き換わっているとのことです。ワクチンが効きにくく、毒性が強いとされる南アフリカ型、ブラジル型の変異株が、猛威を振るうようであれば、早急に次のワクチンの開発、製造が急務と思います。

最後に当院は地域医療構想調整会議では全病棟、重度の意識障害を含む障害者、重度心身障害者、神経難病患者、脳卒中合併入院透析患者等を主として診る慢性期病院として報告し、認知されています。加えて、地域住民の急性肺炎、急性腹症、急性脳卒中、意識障害などの急性疾患も丁寧に迅速に対応して参る所存です。地域に愛され頼りにされる病院を目指して頑張りますので引き続き宜しくお願い申し上げます。

理 念

- 一 良質の医療を提供します
- 一 素晴らしい療養環境を提供します
- 一 患者満足度の向上に努めます
- 一 職員満足度の向上に努めます

医師コラム

転倒について

脳神経内科医長
山崎 雅美

長く生きていると一度は転んだことがあるでしょう。転倒は予期せず起こります。こんなところに段差があるのが悪いと言いたくなりますが、気づかなかったのは何か理由があるのかもしれませんが。認知症などで注意が低下すると転びやすくなります。

転ぶと痛いしケガをすることもあります。転倒は避けたいものです。失敗をくり返さないためには原因を分析することが大切ですが、問題点が外にあるとは限りません。体の動きが鈍く転びやすい状態になっている可能性があります。

足腰が弱くなったのは年のせいだと片付けていませんか。加齢によって筋力やバランス能力が低下しやすいのも事実ですが、運動機能が低下する別の要因が潜んでいるかもしれません。

当院に多いパーキンソン病の患者さんには転倒をくり返す方が少なくありません。病気が進行すると姿勢の制御が難しく転びやすくなります。足がすくんで倒れることもあれば、勢いがついて止まらずこけることもあります。これらの症状は初期には見られませんが、パーキンソン病と似て非なる進行性核上性麻痺では転倒をくり返すことが診断のきっかけになります。

バランスを崩しやすく頻繁に転倒するのは運動失調のせいかもしれません。小脳が侵されると失調を来しますが、他にも原因は考えられます。脊髄や末梢神経の障害により深部感覚が高度に低下すると平衡が保てず倒れやすくなります。自らの立ち位置がつかめないと足元が危うくなるということです。

筋力の低下も転びやすくなる要因の一つです。体を動かさず栄養が偏った生活を続けると筋肉が衰えていきますが、神経筋疾患のために力が弱くなっている可能性もあります。筋を侵す病気に限らず神経の働きが失われたときにも筋肉が萎えていきます。筋萎縮性側索硬化症で初期に転倒が目立つ例もあります。

急に転びやすくなった場合、脳梗塞をおこしている可能性もあります。麻痺の程度が軽いと歩行は可能ですが足の運びが不安定で転ぶようになります。

関節の痛みや変形、視力の低下など転倒につながる体の不調は数多くあります。部屋がいつも散らかっていてつまづくのかもしれませんが。当院ではお役に立てない問題もありますが、よく転んで困っている例などお気軽にご相談ください。



2021年度 新任職員のご紹介



脳神経内科医師

タヅマ タク
田妻 卓

広島市民病院より赴任いたしました、脳神経内科医師の田妻卓と申します。海の近い豊かな環境で、豊かな心をもって患者さんに寄り添った医療を行うことに精進してまいります。よろしくお願いいたします。



副看護部長

ナガスイ ヨウコ
永末 洋子

この度、鳥取医療センターより異動してまいりました永末と申します。

穏やかな瀬戸内海を望む素敵な環境にとっても癒されています。患者、ご家族の皆さんに寄り添った支援ができるように自分の役割が果たせるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



理学療法士長

マルヤマ ヤスノリ
丸山 康徳

この度、鳥取医療センターから赴任致しました丸山康徳と申します。出身が広島ですので、同じ瀬戸内での勤務となり、非常に嬉しく思っております。

各施設により運用状況が大きく異なり、慣れるまでにご迷惑をお掛けすることがあるかと思います。その際にご指導、ご支援頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



療育指導室長

モリタニ コウソウ
森谷 晃壮

この度、徳島病院より赴任してまいりました療育指導室長の森谷と申します。

まだまだ分からないことが多く、毎日右往左往しております。療育指導室は利用者の皆さんが安心安全に生活できる支援をこれからも引き続き取り組んでまいります。皆さまにはいろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



調剤主任

ヨネツ アキコ
米津 亜希子

この度、関門医療センターより異動してきました米津と申します。久しぶりの紙カルテと、少人数での勤務体制に戸惑ってばかりの毎日ですが、早く「脱・足手まとい」となれるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



生理学主任

タカマツ シゲル
高松 慈

この度、高知病院から研究検査科の生理学主任として赴任いたしました高松と申します。主任としての赴任はこの柳井医療センターが初めてですが、少しでも早く皆さんの一助となれるように頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。



看護師長

イワモト ヒロコ
岩本 博子

今年度より南岡山医療センターから赴任してまいりました岩本博子と申します。患者、ご家族の皆さんに寄り添い、その人らしさを大切に、安心、安全な看護の提供ができるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



看護師長

コウマツ ナオコ
幸松 尚子

この度、岩国医療センターより赴任して参りました幸松尚子と申します。

患者、ご家族の皆さんを中心とした、信頼される看護を大切にしていきたいと思います。

分からないことが多くご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。



看護師長

カミツル ヒロコ
上鶴 裕子

この度、山口宇部医療センターより転勤してまいりました上鶴裕子と申します。

初めての転勤で、戸惑うことやわからないことも多く、ご迷惑をおかけすると思いますが精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

運動と免疫について



理学療法士長
渡利 太

(現高知病院 理学療法士長)

運動の効果に免疫力を高めることが知られています。運動が免疫力を高めるメカニズムとおすすめの運動について説明します。

1. 体温が上がる。運動をすると筋肉が動きます。筋肉は身体の中で最も多くの熱を産生する組織です。筋肉が動くときに発生するエネルギーのうち、約25%が筋肉の収縮・弛緩に使われ、残りが熱となり体温の保持に利用されます。体温が高くなると血液中の白血球に含まれる免疫細胞が活性化されるため、免疫力が高まるといわれています。2. ストレス解消になる。運動をすると過剰なストレスホルモン（コルチゾール）が正常化するといわれています。また筋肉には幸せホルモン（セロトニン）が存在します。運動することで不安を解消し前向きになる効果が期待できます。ストレスが解消されると過度な交感神経の活動が抑えられます。副交感神経とのバランスが改善され、自律神経の働きが整えられることにより免疫機能が正常に働くといわれています。

おすすめの運動は、ウォーキングと筋力トレーニングです。ウォーキングは全身運動なので、全身の筋肉を動かします。そのため筋肉の熱産生により効率よく体温が高まります。ポイントは、両手を大きく振り大腿で早歩きすることです。また寒い日などはなるべく肌が外気にさらされないように、マフラーや手袋、長い靴下など防寒対策をすることで早く身体が温まります。10分程度歩けば身体が温まり、30分も歩けば汗ばんでくるでしょう。水分補給を忘れないようにして下さい。筋力トレーニングは筋肉を増加させる効果があります。筋肉の量を増やすことで、運動による免疫力を高める効果がさらに期待できます。ポイントは、正しいフォームでケガをしないようにすることです。



また無理をせず続けることが大事です。3カ月続けると筋肉が増加するといわれています。

免疫力を高める方法は運動だけではありませんが、運動は最も効果的な方法の一つであるといえます。運動を始めるコツは、難しいことを考えずに今から始めることです。最後までお読みいただきありがとうございました。

～美味しく栄養がとれる 形態調整食を目指して～



栄養管理室長
井手 孝

当院は神経・筋疾患（筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、多発硬化症）といった摂食嚥下障害を呈する患者様が多く入院されています。栄養管理室では嚥下障害のある患者様が食べやすい工夫として形態調整食を提供しています。この度は当院で提供している形態調整食についてご紹介いたします。

当院の形態調整食の種類は易嚥下食、ミンチ食、つぶしトロミ食があり、それぞれ日本・摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類を基準にした食事となっています。分類コード1は易嚥下食、コード2はミンチ食、コード3はつぶしトロミ食となっています。

コード1の易嚥下食の特徴としては、軟菜食をベースにミキサーにかけ、裏ごしをしたものをムース状に固めます。裏ごしがしてあるため、均質で舌触りもよく、食材の味が感じられるものとなっています。また栄養価においては、カロリーと蛋白質、ビタミン、ミネラルアップのためニュートリーコンク2.5を使用しています。易嚥下食を摂取の方は、食べる為の筋肉が落ちていたり、呼吸状態が悪かったりと食事摂取量が少ない方も多く、少量で高カロリーが摂取できることは、低栄養を防ぐことに繋がります。コード2のミンチ食は、軟菜食をミキサーにかけ、裏ごししたものにトロミをつけたものになります。ミンチ食もニュートリーコンク2.5を使用し、栄養価をアップしております。コード3のつぶしトロミ食は軟菜食を小さく切ったものに、トロミあんをかけたものとなります。以上が当院の主な形態調整食であり、患者様の嚥下の状態に合わせてそれぞれ提供しております。

今後も栄養管理室では形態調整食の献立や調理方法を検討し、患者様一人ひとりに合った食事提供を目指し、食事を楽しみにしていただけるよう頑張っていきたいと思っております。



地域医療連携室コーナー

難病研修会を開催いたしました



令和2年度、山口県柳井健康福祉センターと共催で難病研修会を開催いたしました。コロナ禍で保健師さんも多忙を極める中でなんとか開催することができました。今回の研修テーマは、「災害対策」について。柳井健康福祉センターのこれまでの取り組みの紹介、当院で行った患者家族への災害対策の意識調査報告、災害時の支援の必要性について講演を副院長が行い、支援者として備えておくこととして意見交換を行いました。短い時間の中で32名という少人数ではありましたが、有意義な会になりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

研修会についての声

- コロナ禍でも研修していただきありがとうございました。
- 現在の難病患者さんのかかえる問題やその対策について大変勉強になった。災害に対する意識が高まった。
- コロナ等もあり、今は無理ですが落ち着いたら、避難所見学とか避難訓練などできるといいなと思いました。
- 福祉避難所が3日をメドに開設というのにびっくりしました。当日開設できるようになったらいいですね。
- ハザードマップの具体的な使い方をするといいと思います。
- 色々と意見が聞けて良かった。



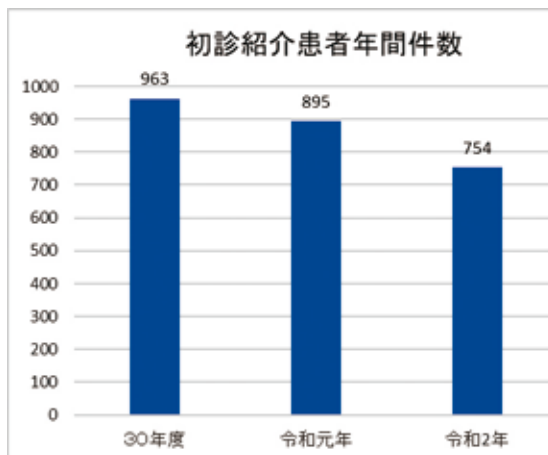
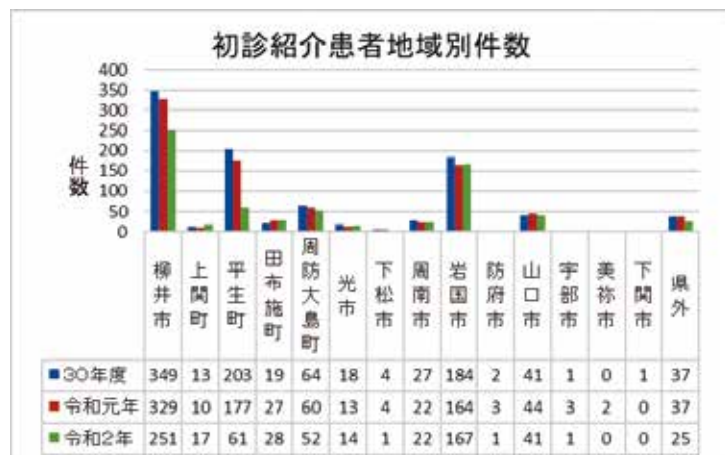
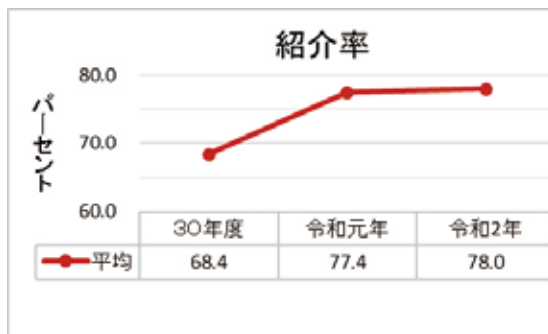
ご紹介患者さまについて

開業医の先生方におかれましては患者様をご紹介いただきありがとうございます。

2020年度の紹介患者数についてご報告させていただきます。

今後も引き続きご紹介の程よろしく願いいたします。

また、ご紹介の際には事前予約にご協力をお願いいたします。





認知症疾患医療センターコーナー

新型コロナウイルス感染症の影響で、手洗い・消毒やマスクの装着等「Withコロナ」の状況が続いています。

感染防止のため外出制限や面会制限、自粛等が続く中で、当院でも3月よりオンライン面会が開始されました。画面を通した初めての面会方法で戸惑う患者さんや「元気そうでよかった」と久々に見た姿に安堵する家族など、オンライン面会が出来たことで、患者、ご家族の皆さんにも笑顔が戻り始めている様に感じます。今後もっと多くの患者・ご家族の皆さんが画面越しでの面会を行い、いつかは顔と顔をあわせて面会が出来る日が来ることを願っています。



さて、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で書面報告となってしまいましたが、2021年3月17日、当院にて令和2年度認知症疾患地域医療連携協議会が、山口県健康福祉センターと共催で開催されました。行方不明者について警察署より報告をいただき、各市町の本年度の行方不明者についての活動報告を行いました。全国の行方不明者数は2019年では8万6933件、その内認知症を有する方は1万7479人となっており、2012年と比べると1.8倍、7年連続で増加となっています。山口県でも認知症の行方不明者の数は5年前と比べると2倍になっており増加の一途をたどっています。その為、見守りサービスとして柳井市・上関町では「どこシル伝言板」、平生町では「Me-MAMORIO」が導入され、2021年度は周防大島町が「どこシル伝言板」の導入を予定しています。今後は登録者数の増加や、サービスについての啓発活動にも力を入れていくとの事でした。協力機関での情報共有を密にとり、行方不明者が出た場合、速やかに動けるような体制、地域全体で支えていけるような支援体制作りを築いていけたらと思います。

病院の統計

年 月	当院平均 患者数(人)			紹介患者数(人)
	入 院		外 来	
	一 般	療養介護		
R3.2	189.2	76.2	78.7	64

一般病床200床、療養介護病床80床

【紹介率】

単位：％

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H31'実績	79.6	76.1	75.0	71.4	76.7	74.2	75.9	69.8	80.2	69.7	67.0	59.2
R2'実績	71.4	70.0	84.6	68.3	69.7	66.7	79.2	50.0	67.8	80.5	71.3	

【病床利用率】※一般病床のみ

単位：％

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H31'実績	97.7	96.9	97.1	95.6	96.9	97.0	97.9	97.3	97.4	97.0	96.9	97.7
R2'実績	96.2	97.3	97.2	96.7	96.9	98.0	98.1	95.7	94.9	92.9	94.6	

外 来 診 療 担 当 表

		月	火	水	木	金	備 考
内 科		—	まつもと 松本 信夫	—	まつもと 松本 信夫	まつもと 松本 信夫	
脳神経内科	初 診	みやち 隆史	ふくば 浩正	にしかわ 西川 智和	やまさき 山崎 雅美	たづま 田妻 卓	要 予 約
	再 診	にしかわ 西川 智和	たづま 田妻 卓	みやち 隆史	みやち 隆史	ふくば 浩正	
	再 診	ふくば 浩正	—	—	にしかわ 西川 智和	やまさき 山崎 雅美	
外 科	初 診	いけだ 池田 政宣	たけもと 竹本 将彦	すみもと 住元 了	いけだ 池田 政宣	まつもと 松本 富夫	火・木曜日 午後手術日
	初 診	たけい 竹井 大祐	たけい 竹井 大祐	—	—	—	
	再 診	たけもと 竹本 将彦	まつもと 松本 富夫	すみもと 住元 了	たけもと 竹本 将彦	やすざわ 安澤 紀夫	
	再 診	—	—	いけだ 池田 政宣	—	—	
	再 診	—	—	やすざわ 安澤 紀夫	—	—	
腎 臓 内 科		—	—	—	たむら 田村 亮	—	
整 形 外 科		—	—	とくもと 徳本 真矢	なかた 仲田 恭平	—	
循 環 器 内 科		こばやし 小林 佑輔	—	おくし 小栗 直人	—	—	
呼 吸 器 内 科		—	いそやま 磯山 正子	—	—	みやもと 宮本真太郎	
肝・胆・脾・消化器科		じょうひら 上平 祐輔	—	—	—	—	
糖 尿 病・内 分 泌 内 科		—	—	—	—	おおの 大野 晴也	
内 視 鏡		まつもと 松本 信夫	—	まつもと 松本 信夫 第1・3週 広島大学病院医師	—	第2・4週 たかし 高砂 健	
皮 膚 科		—	(隔週) まつもと 松原 大樹 沼田 智史	—	—	—	
泌 尿 器 科		広島大学病院医師	—	—	—	—	午後のみ

※発達療育相談外来（随時 受診には事前予約が必要です）

は広島大学病院医師

令和3年4月1月現在

腹部救急診療

24時間365日体制で診療しています。

対象患者
激しい腹痛、心窩部痛、
側腹部痛、腰痛、肛門会陰部痛、
鼠径部痛、下血症例



救急担当医は次のようになります。（※時間外の体制）

	月	火	水	木	金	土	日
担当医	竹井	池田	松本(當)	竹本	当番外科医	当番外科医	当番外科医

※消化器外科医が病院内に24時間365日常駐しています。

CT・MRIの検査予約を受付けています

当院では、CT及びMRIの検査予約を行っています。

下記の連絡先に予約を申し込んでください。放射線専門医による読影結果はFAX及び郵送にてお届け致します。撮影画像はCD-Rで患者様にお渡し又は郵送致します。（至急依頼の場合の検査報告は検査後2時間ほどで出ますのでFAX後、郵送致します。）

CT・MRIの予約受付先

国立病院機構柳井医療センター放射線科受付

担当者 山本(やまもと)

電話:0820-27-0211 内線538または229

※なお、FAXでの申し込み及びその他の診療予約については地域医療連携室へ申し込んでください

